

《担当者名》清水友陽（非常勤講師）

【概要】

複雑性や不確実性が増す中、事前に決められた計画に従うだけでなく、その都度個別の「状況に応じる能力」が必要となる。多様性を理解し、小さな差異や複雑性を残しつつ、協働して新たな関係を構築するスキルが求められる。本講義では、演劇的手法を用いグループワークを中心に、実際に身体を動かしながら「主体的に判断し対応していく力」「創造する能力」「他者を想像しての対話」を身につけるための、実践的なコミュニケーションを学修する。

【学修目標】

自分自身を客観的に観察し、各自のコミュニケーションの方法を発見する。  
 キャリア形成の今日的意義を理解する。  
 他者を知り、相手を想像して伝達するためのスキルを身につける。  
 協働的なリーダーシップの視点を身につける。

【学修内容】

| 回  | テーマ                      | 授業内容および学修課題  | 担当者  |
|----|--------------------------|--|------|
| 1  | オリエンテーション                | 講義計画と講義の進め方、ループリックによる評価の説明。講義を進めるための「対話を生み出す場」について考察する。              | 清水友陽 |
| 2  | 非言語コミュニケーションを体験する        | 言語を用いないコミュニケーションを、シアターゲームのアクティビティを用いて体験・考察する。                        | 清水友陽 |
| 3  | インプロヴィゼーション（即興）を体験する     | インプロの協働原則を共有した上で、アクティビティを体験・考察する。                                    | 清水友陽 |
| 4  | 創作（前編）                   | チームに分かれて、セリフのない簡単な創作・発表を行う。どのように伝わったか、観客的視点から考察し、ディスカッションを行う。        | 清水友陽 |
| 5  | 創作（後編）                   | 4で行った創作を、チームごとに深める。トップダウン型と協働的リーダーシップについての考察、ディスカッションを行う。            | 清水友陽 |
| 6  | 権力とステータスを体験する            | 様々な形で社会に存在する、権力とステータスの問題について、シアターゲームのアクティビティを用いて体験・考察する。             | 清水友陽 |
| 7  | 文化とアイデンティティの対立の考察        | 文化とアイデンティティの対立問題について、アクティビティを用いて、体験・考察する。身近にどんな問題が潜んでいるかディスカッションを行う。 | 清水友陽 |
| 8  | ストーリー（物語）とナラティブ（語り）を体験する | 他者のストーリーに視点を置き、共通の物語を生み出し、それを自分の言葉で語ることを体験する。                        | 清水友陽 |
| 9  | 創作（前編）                   | 6～8で考察したことを題材にして、短い演劇作品を創作・発表する。どのように伝わったか、観客的視点から考察し、ディスカッションを行う。   | 清水友陽 |
| 10 | 創作（後編）                   | 9で行った創作を深める。観客の対象年齢や、ステータスを変えた想定で、創り変えてみる。                           | 清水友陽 |
| 11 | ポリフォニック（多声的）な構成の対話を体験する  | 複数の視点で構成される対話について、体験し考察する。モノログとの違いをディスカッションする。                       | 清水友陽 |
| 12 | ディスカッション・ドラマの創作（前編）      | チームに分かれ、ある設定を元に、ポリフォニックな構成の討論劇を書いてみる。                                | 清水友陽 |
| 13 | ディスカッション・ドラマの創作（中編）      | 書き上げたドラマを、短編劇として創作・発表する。観客の意見を聞き、リライトする。                             | 清水友陽 |
| 14 | ディスカッション・ドラマの創作（後編）      | それぞれの作品がどのように伝わったのか、それはなぜか、ディスカッションを行う。                              | 清水友陽 |

| 回  | テーマ   | 授業内容および学修課題   | 担当者  |
|----|-------|---|------|
| 15 | ふりかえり | この講義で何を体験し、またそれぞれの生活に置き換えた時に、どのように応用できるのか、それぞれの言葉で語る。 | 清水友陽 |

**【授業実施形態】**

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

各アクティビティ、創作グループワークへの参加意欲・態度 100%

意欲・態度の評価は、ルーブリック表を用いて行う。演技の技術は問わない。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書】**

使用しない

**【備考】**

適宜、講師による自作資料を使用する。

**【学修の準備】**

全ての時間、身体を使った実践的な体験学修となる。動きやすい服装で参加すること。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP-2.（社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している）

DP-3.（社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している）

上記に掲げる心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。

**【実務経験】**

北海道演劇財団理事、演出家、脚本家。演劇ワークショップ・ファシリテーター。

**【実務経験を活かした教育内容】**

演劇的手法を用いて、参加型の学修を行う。

様々な役割や人物を演じる体験をすることにより、考え方の異なる他者のことを想定したコミュニケーションを学修する。